

第1節 地域別農業の特徴と振興の考え方

東京農業は、区部や多摩の都市地域から中山間地域※1、伊豆・小笠原の島しょ地域まで、極めて広域な地域で、それぞれに自然や周辺環境に応じた特色ある農業が営まれていることから、各地域の農業の振興にあたっては、地域の実情に応じた振興策が必要です。

ここでは、東京農業を地域別に大きく3つに分け、それぞれの農業の特色と特徴的な振興方向を示します。

《特色ある地域の農業》

1 都市地域の農業

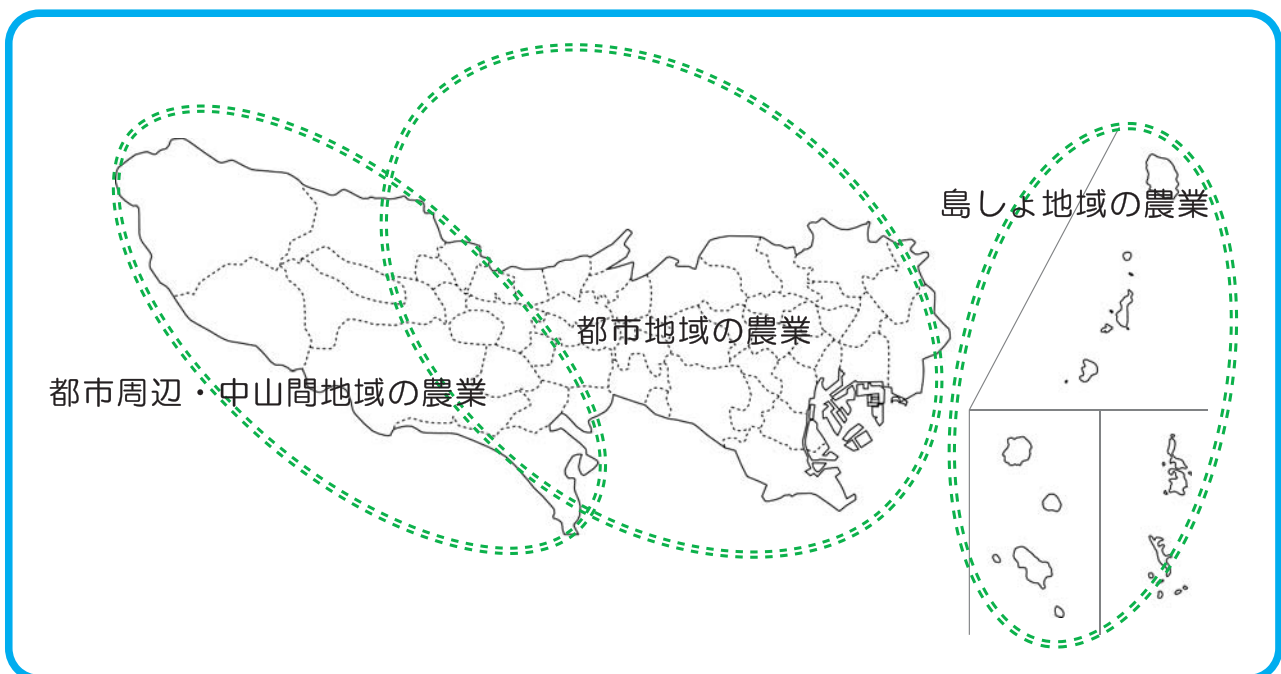
区部や多摩地域の市街化区域内で行われている農業

2 都市周辺・中山間地域の農業

農業振興地域を含む都市地域周辺及び中山間地域で行われている農業

3 島しょ地域の農業

伊豆諸島及び小笠原諸島で行われている農業



※1 中山間地域：平野の外縁部から山間地までの地域で、過疎化・高齢化が進んでいるなどの農業の諸条件が不利な地域

1

都市地域の農業

(1) 農業の特徴

《地域の概況》

区部や多摩地域の市街化区域では、生産緑地を中心とした農地で、都民生活との関わりを持ちながら農業が展開されています。近年、この地域の農地は、都民のレクリエーションの場や災害時の防災空間など、その多面的機能が注目されています。

《農地・担い手》

- 農地の約8割が生産緑地地区に指定され、限られた農地を効率的に利活用した農業が進められています。特に、区部の東部地域では施設栽培による極めて集約的な農業が展開されています。また、区部の西部から多摩地域にかけては、比較的まとまった農地が存在し、露地栽培や施設栽培による生産が活発に行われています。しかし、この地域では、相続の発生等に伴い、農地の減少が続いています。
- この地域は、他業種からリターンで就農する後継者などが比較的多く存在します。一方で、農業者の高齢化などにより労働力が不足している農家もあり、制度上、農地の貸し借りが実質的に難しいことから、こうした農家への農作業のサポートが必要です。

《経営・生産・流通》

- この地域には、積極的に経営改善に取り組む認定農業者などが多く、それぞれの農業者が生産から販売まで、創意工夫をこらした個性ある経営を展開しています。近年は、農産物加工や農業体験農園などのサービスを経営に取り入れる農業者も多く見られます。
- 生産品目は実に多様で、各地域で特産物を生産しています。



集約的に栽培される江戸川のコマツナ

野菜は、区部東部では東京特産のコマツナを中心とした軟弱野菜類が施設栽培により集約的に生産されて、市場を中心に出荷されています。また、区部西部から多摩地域では、かつては、キャベツやブロッコリーなどの産地として市場に多く出荷されていましたが、近年は、

直売への移行が進んでおり、多種類の野菜が生産されています。また、江戸の伝統文化を引き継ぐ「江戸東京野菜」が注目されており、栽培に取り組む農家も見られます。

果樹では、直売や贈答用として人気が高いナシの「稻城」やブドウの「高尾」など、収益性の高い品目が生産されています。近年では、ブルーベリーなどの観光農園も増えています。

花きでは、シクラメンやプリムラなどの鉢花や花壇苗などの生産が盛んで、植木やグランドカバープランツでは、全国有数の産地となっています。



大規模に生産される花壇苗

畜産では、環境問題を克服しながら都市の立地を活かした経営に取り組んでいます。酪農家がアイスクリームなど乳製品の製造・販売に取り組んだり、家畜とのふれあいの場を提供するなど、地域と共存した経営を展開しています。

また、養鶏農家では、新鮮な鶏卵や東京うこっけい卵の直売、自家製の卵を使った洋菓子の製造・販売など、多様な取組が行われています。

- 大消費地の中で農業が展開されていることから、農産物は市場出荷のほか、直売所や地元量販店など、多様な販売ルートを通じて都民に提供されています。

(2) 農業振興の方向

《東京農業の特性を活かした産業力の強化》

- 新技術の導入や施設化などによる生産性向上に加え、大消費地に立地する優位性を活かして、農産物加工やサービスなどの経営の多角化を進めます。また、都民ニーズを積極的に開拓し経営に活かすことで、収益性の高い力強い農業経営を目指す意欲的な農業者を支援します。
- 地元商工業者との連携や農業者自らによる、地域の特産物を活用した新商品の開発を積極的に支援し、地域の活性化に貢献していきます。
- 認定農業者や農業後継者の経営力向上を支援するための技術・経営研修を充実していきます。また、農業者の高齢化や労働力不足に対応するため、援農ボランティアや農作業受委託の仕組みを充実していきます。
- 都市農地の保全に向けては、区市と連携し、生産緑地の追加指定を推進します。

《都内産農畜産物の安全・安心の確保と地産地消の推進》

- 住宅に隣接し消費者の目の前で生産が行われているこの地域では、IPM技術など様々な手法を用いて農薬や化学肥料の使用を抑えた環境に優しい農業を推進します。

また、JA等農業団体と連携して生産情報の記録と公開を推進し、消費者の食の安全・安心への期待に応える取組を推進していきます。

- 農産物共同直売所やインショップでの販売、商店街との連携などにより地域における農産物の地産地消を推進していきます。

また、この地域の農産物を、農地のない区部の学校給食や都心部の飲食店に供給するなど、販売チャンネルの多様化と新たな流通ルートの構築により、都内産農産物の地産地消ネットワークを整備して、都民の期待に応えていきます。



スーパーでのインショップ販売

《豊かな都民生活と快適な都市環境への積極的貢献》

- 都市の農業・農地は、観光農園や農業体験農園などによる都民と農業のふれあいの場や、農業用井戸の災害時の活用を含めた防災空間、子供たちの農業体験学習や食育の場としても活用されています。今後も、区市や農業団体等と連携し、農業・農地の持つレクリエーションやコミュニティー、教育、防災などの多面的機能を発揮した農のあるまちづくりを推進します。



子供たちのいも掘り体験

- この地域では、花と植木の生産が活発に行われていることから、こうした都内産緑化植物を活用して東京の緑化を推進する「花と植木の地産地消」を進め、生産・流通の拡大に取り組んでいきます。

- 都民が身近な都市地域で農とふれあい、体験し、楽しめるよう、農産物直売所や観光農園、農業体験農園、とうきょう特産食材使用店などの情報を積極的に発信するとともに、地域を訪れ、楽しめるよう、農を巡る散策マップや案内板などの整備を進めます。

2

都市周辺・中山間地域の農業

(1) 農業の特徴

《地域の概況》

都市周辺の市街化調整区域には、5市町に農業振興地域があり、比較的平坦でまとまった農地が広がっています。

また、奥多摩町・檜原村などの中山間地域では、斜面の小規模な農地でジャガイモやユズなどの栽培や山の清流を利用したワサビの栽培などが行われ、これらは観光資源にもなるなど、特色ある農業が行われています。



奥多摩特産のワサビ

《農地・担い手》

○ 農業振興地域では、農業生産基盤の整備が行われ、比較的条件の良いまとまった農地で農業が営まれています。

中山間地域では、農地が急峻な場所に点在している場合が多く、こうした農地を効率的に利活用するための農業生産基盤の整備が必要となっています。

○ この地域は都市地域に比較して、農業者の高齢化による労働力不足と遊休農地の発生が課題となっています。しかし、最近、農業に関心を持つ若い世代が増え、農地を借りて新規就農するケースが見られるようになりました。

《経営・生産・流通》

○ 都市周辺地域には、大型の農産物直売所があり、規模の大きな農家から小さな農家までが農産物を出荷することのできる重要な流通拠点となっています。

直売所への出荷に向けては、ビニールハウスなどの栽培施設の導入を進め、生産量の確保と品揃え、周年出荷が求められています。



道の駅「八王子滝山」の農畜産物直売所

- 八王子市の水稻やあきる野市のスイートコーン、青梅市のウメ、瑞穂町の茶など、広い農地を活用した特産品の生産のほか、団地化された温室により鉢花が多く生産されています。
- 畜産では、「TOKYO X」や「東京しゃも」などのブランド畜産物の生産拠点となっています。多摩の酪農家と乳業メーカーが共同開発した「東京牛乳」や、うこっけいの肉を使った「東京うこっけいハム」の製造など、メーカーと協力した商品開発も行われています。また、優良な堆肥を地域の農家に供給することで、環境保全型農業の推進にも貢献しています。
- 中山間地域では、女性農業者の起業や商工業者との連携により、ワサビ漬けやユズワイン、梅干、ジャムなどの加工品の製造・販売が活発で、これらは地域の重要な観光資源になっています。

一方、イノシシやシカ、サルなどによる農作物被害に悩まされており、これらへの対応が必要です。

(2) 農業振興の方向

《東京農業の特性を活かした産業力の強化》

- 農業振興地域を中心として市街化調整区域では、農道や農業用水施設などの農業生産基盤の整備や栽培施設の導入を進め、特産物の生産力を強化し、農産物共同直売所などでの販売を拡大していきます。また、急峻な地形の中山間地域では、農業用モノレールの設置や農道の整備などにより、特産物の生産力を強化します。
- 地元商工業や観光業との連携により、都市部から訪れる観光客などを対象として、地域の特産物を活用した新商品の開発・製造・販売や観光農園の開設などによる経営の多角化を進め、新たな経営の展開と地域の活性化を図っていきます。
- 認定農業者や農業後継者、定年就農者、新規参入者など、幅広い担い手を対象とした技術・経営研修を充実していきます。
- 新規参入者の円滑な就農と定着に向けた取組の推進と、規模拡大を目指す意欲ある農業者への農地の集積に向け、農業経営基盤強化促進法に基づく利用権設定等を市町村と連携して進めます。また、この取組をさらに推し進めるために、市町村における農地利用集積円滑化団体の設立を促進します。
- 農業者の高齢化や担い手不足などにより発生した遊休農地については、再生に向けた支援を強化し、規模拡大を目指す農業者や新規就農者による活用を進めていきます。

《都内産農畜産物の安全・安心の確保と地産地消の推進》

○ この地域では、大型直売所などへの出荷が増加しています。農薬や化学肥料の使用を抑えた環境に優しい農業や、生産情報の記録と公開を推進するなど、直売所を訪れる消費者の食の安全・安心への期待に応えていきます。

○ 中山間地域を中心として、イノシシやシカ、サルなどからの農作物被害を防ぐため、電気柵の設置や捕獲などの獣害対策を継続的に行っています。

また、現在問題となっているウメ輪紋病の根絶に向けて、関係自治体や農業者などと連携して迅速に対応していくとともに、ウメの産地の再生や梅園跡地の活用に向けた取組を推進します。

《豊かな都民生活と快適な都市環境への積極的貢献》

○ 豊かな自然が残るこの地域では、農業も観光資源の一つとなっています。都民が農とふれあい、体験し、楽しめるよう、農産物直売所や観光農園、クラインガルテン※1などの整備を行うとともに、これらの情報発信や散策マップ・案内板を整備するなど、観光型の農業を推進します。

○ 東京では少なくなったこの地域の里山や水田は、環境保全や景観形成、自然教育の場の提供など、貴重な役割を果たしています。このため、小規模な農道の整備や農業用水路の保全などに努めています。



子供たちの稲刈り体験

※1 クラインガルテン：契約した区画内に、野菜や花等を栽培する農園（ほ場）のほか、休憩・宿泊等に使用する簡単な小屋（ラウベ）を併設したヨーロッパ型の市民農園のこと。

3

島しょ地域の農業

(1) 農業の特徴

《地域の概況》

東京の南1,000kmの広大な海洋エリアに伊豆・小笠原諸島の9つの町村があります。各島では、離島という流通面等でのハンディを抱えながらも、花き・観葉植物やアシタバ、亜熱帯果樹の生産など、温暖な気候を活かした農業が行われています。これらの農産物は、島外に出荷されるほか、島を訪れる観光客に提供されるなど貴重な観光資源にもなっています。



伊豆諸島特産のアシタバ

《農地・担い手》

- 島しょ地域には、耕作条件に恵まれない傾斜地や狭小な農地が多く存在します。こうした農地を効率的に利活用するためには、農業用水や農道などの農業生産基盤の整備が重要となっています。
- この地域では、農業者の高齢化と後継者不足が著しく、農地の遊休化が深刻化しています。こうした中で、八丈町や小笠原村では、農業後継者の育成や島外からの新規参入の受入れなど、積極的な担い手確保対策を行っており、こうした取組は他の町村でも始まろうとしています。

《経営・生産・流通》

- 伊豆諸島では、フェニックス・ロベレニーやレザーファン、ルスカスなどの切り葉類、ブバルディアやフリージアなどの切り花類のほか、野菜では特産のアシタバなどの生産が盛んです。また、小笠原諸島では、亜熱帯の気候を活かして、パパイヤやマンゴー、パッションフルーツなどの果樹類のほか、糖度の高いミニ



レザーファン改植の共同作業

トマトの生産が盛んです。

近年、強い季節風や台風から農作物を守るため、耐風性の強いパイプハウスや鉄骨ハウスが導入されつつあり、こうした栽培施設が安定生産には不可欠となっています。

- 伊豆諸島特産の切り葉・切り花類やアシタバなどは、島外に市場出荷されています。小笠原のパッションフルーツやミニトマトなどは、島内で贈答用やお土産品として販売されています。

しかし、農産物の出荷にあたっては、船や飛行機の欠航、長い輸送時間による荷痛みなど、島しょ地域特有の流通面の課題があります。

一方、多くの島で、共同直売所や学校給食への供給など、島内の地産地消の取組も見られるようになってきました。

- 特産物の加工品の製造が盛んで、サツマイモは古くから焼酎の原料となっているほか、ジャムや菓子類などの様々な加工品が観光客のお土産品などとして製造されています。
- 島しょ地域では、島外から移入された台湾ザルや台湾リス、ノヤギ、シカなどによる農作物被害が深刻化しており、これらの対策が求められています。

(2) 農業振興の方向

《東京農業の特性を活かした産業力の強化》

- 農道や農業用水施設などの農業生産基盤の整備やパイプハウスなどの栽培施設の導入などにより特産物の生産力を強化します。また、傾斜地にある農地については、農業用モノレールの設置や農道の整備などにより、生産の効率化を図ります。

- 観光客を対象として、地元商工業者や観光業者との連携により、地域の特産物を活用した新商品を積極的に開発するとともに、加工品の製造や観光農園などによる経営の多角化など、新たな取組を積極的に進め、地域の活性化を図っていきます。

- 農業者の高齢化と担い手不足が著しい島しょ地域では、新規参入者の確保と育成が大きな課題となっています。そのため、研修農場の整備や農地の斡旋など、新規参入者の円滑な就農と定着に向けた町村の取組を支援していきます。



八丈島・青ヶ島産“レイプランツ”

また、こうした取組をさらに加速するため、町村における農地利用集積円滑化団体の設立

の促進と遊休農地の再生に向けた支援を行っていきます。

《都内産農畜産物の安全・安心の確保と地産地消の推進》

- 島しょ地域特産のアシタバや切り葉・切り花類などの市場出荷にあたっては、保冷コンテナの整備などの流通面での支援を進めます。
- アシタバやパッションフルーツ、農産物加工品について、都内のJA直売所や商店街、量販店への販売ルートの拡大を進めていきます。また、観光客に対し、民宿やペンション、飲食店などで島の食材を使った料理を提供する取組を進めます。
- タイワンザルやノヤギ、シカなどによる農作物被害を防ぐため、電気柵の設置や捕獲などの獣害対策を継続的に行い、これら移入動物の根絶を目指します。



利島特産の「つばき油」

《豊かな都民生活と快適な都市環境への積極的貢献》

- 島しょ地域では、観光業が重要な産業となっていますが、その魅力をさらに高めるために農業が大きな役割を果たしています。観光客が求める島特産の農産物や加工品などを販売する農産物直売所や観光農園などの整備を行うとともに、これらの情報発信や散策マップ、案内板などの整備を進めます。

第2節 経営モデルの例示

東京農業は、都市地域から中山間地域、そして島しょ地域と、様々な環境のもとで営まれています。また、経営規模や経営形態も様々です。農業振興にあたってはこうした地域特性や経営規模などの違いを前提として、それぞれの特色を發揮して、安定的かつ魅力ある経営展開を図ることが望まれます。

そこで、都内各地域で実際に営農が行われている経営事例をもとに、目標とする農業所得別の経営モデルを例示し、農業者の皆さんを始め、その取組を支援する自治体や関係機関の参考としていただくこととしました。

1 経営モデルの設定

本モデルでは、東京農業をリードする専門的な経営体の農業所得について、1,000万円を目指すこととしました。また、経営基盤や地域の社会的条件、担い手の年齢などに応じて、農業所得の目標を600万円及び300万円とするモデルも設定しました。

経営体については、家族経営を基本にしていますが、労働力はパートタイマーを中心とする雇用労働力やボランティアなどの活用も考慮しています。労働時間については、農業者の健康や余暇時間を確保する観点から、農作業の省力化対策を積極的に進め、主たる従事者1人当たりの年間労働時間は、おおむね1,800時間を目標としました。

なお、農業生産法人などの企業的な取組については、その販売額の目標を5,000万円以上とするモデルを設定しました。

農業所得の多少に関わらず、農業者がそれぞれの条件に応じて、持てる力を最大限に發揮していくことが、東京農業の発展と豊かな都民生活を支えることにつながります。そうした観点から、所得・販売額別の経営モデルに加え、東京農業の振興方向に視点を置き、生產品目や販売方法等による経営モデルを例示しました。

● **農業所得・販売目標別経営モデル**

- 1 東京の農業をリードする経営モデル（所得目標1,000万円）
- 2 地域の農業を担う経営モデル（所得目標600万円）
- 3 農業の広がりを支える経営モデル（所得目標300万円）
- 4 農業生産法人など企業的な経営モデル（販売目標5,000万円以上）

● **経営モデルのタイプ**

- I 直売等を中心とした地産地消に取り組む農業経営
- II 市場や量販店等への出荷を中心とする農業経営
- III 生産と共に加工・販売に取り組む農業経営
- IV 豊かな都民生活に貢献する農業経営

2

経営モデルの例示

(1) 東京の農業をリードする経営モデル（所得目標1,000万円）

番号	分類	タイプ	営農モデル	経営耕地(a) (施設面積a) 作付面積(a)	労働力(人)	主な品目	主な施設・機械
1	野菜	I	施設野菜と露地野菜を組み合わせた直売経営	120 (施設40) 180	3 + 雇用1	トマト、キュウリ、スイートコーン、ブロッコリー、ニンジン、キャベツ等	園芸用ハウス、暖房機、予冷库
2	野菜	II	土地利用型野菜と集約型野菜の市場出荷や契約出荷を主とした経営	180 (施設20) 360	3 + ボランティア1	ダイコン、キャベツ、ホウレンソウ、コマツナ、トマト、ブロッコリー等	園芸用ハウス、予冷库、シーダー、マルチャー、移植機、野菜洗浄機
3	野菜	II	市場や学校給食への出荷を主としたコマツナ経営	50 (施設40) 300	3 + 雇用1	コマツナ	園芸用ハウス、予冷库、野菜洗浄機
4	野菜	II	量販店等との契約出荷や市場出荷を主とした経営	200 (施設20) 400	3 + 雇用1	ホウレンソウ、コカブ、ミズナ、ニンジン等	園芸用ハウス、予冷库、野菜洗浄機
5	花き	II	花壇苗の市場出荷や契約出荷を主とした経営	70 (施設30) 120	3 + 雇用2	花壇苗、鉢物類、野菜苗	園芸用ハウス、自動かん水装置、バックホー、鉢用土混合機、用土置場、暖房機
6	花き	I II	直売と市場出荷を組み合わせた鉢物経営	45 (施設45) 90	3 + 雇用2	シクラメン等の鉢物類	園芸用ハウス、暖房機、砕土機、土入れ機
7	花き	I	切り花を中心に共同直売所やインショップ、スーパーへの出荷を主とした経営	60 (施設40) 120	4 + 雇用1	ユリ、ストック、アスター、トルコギキョウ、その他切り花	園芸用ハウス、予冷库、自動液肥投入機
8	複合	I	パッションフルーツを主とした施設園芸経営	40 (施設30) 40	2 + 雇用1	パッションフルーツ、マンゴー、トマト、柑橘類、コーヒー	園芸用ハウス、果樹棚
9	植木	II	ガーデニングや屋上緑化等に向けた苗木生産を行う経営	150 (施設20) 150	2 + 雇用1	コニファー類、ツツジ類、グランドカバー類、ハナミズキ等	育苗ハウス、バックホー、根切りチェーンソー
10	畜産	II	高能力牛群の飼養と堆肥の生産・販売を行う経営	200 40頭 (経産牛)	2 + 雇用0.5	生乳、堆肥	牛舎、ミルクカー、バルククーラー、自動給餌機、ふん尿処理施設
11	畜産	III	酪農と自家製乳製品の直売を組み合わせた経営	100 30頭 (経産牛)	2 + 雇用2	生乳、乳製品、堆肥	牛舎、ミルクカー、バルククーラー、自動給餌機、ふん尿処理施設、乳加工販売施設

(2) 地域の農業を担う経営モデル（所得目標600万円）

番号	分類	タイプ	営農モデル	経営耕地(a) (施設面積a) 作付面積(a)	労働力(人)	主な品目	主な施設・機械
1	野菜	Ⅲ	ワサビの生産と加工販売を主とした経営	50 (施設0) 50	2	ワサビ、加工品	加工施設、販売施設
2	野菜	Ⅲ	野菜の直売と農産物の加工販売を組み合わせた経営	80 (施設20) 120	2 + 雇用1	トマト、ナス、キュウリ、ダイコン、サトイモ、菓子、惣菜	園芸用ハウス、予冷庫、加工施設
3	野菜	I	集約的作目の直売や契約出荷を主とした野菜経営	50 (施設40) 250	3	トマト、キュウリ、ホウレンソウ、コマツナ等	園芸用ハウス、予冷庫
4	野菜	Ⅱ	軟弱野菜を主とした市場出荷経営	50 (施設40) 250	2	コマツナ、ホウレンソウ、エダマメ	園芸用ハウス、予冷庫、野菜洗浄機
5	野菜	Ⅱ	市場や学校給食への出荷を主としたコマツナ専作経営	40 (施設30) 240	2	コマツナ	園芸用ハウス、予冷庫、野菜洗浄機
6	野菜	Ⅱ	コマツナとエダマメの市場出荷を主とした経営	60 (施設30) 240	2	コマツナ、エダマメ	園芸用ハウス、予冷庫、野菜洗浄機
7	野菜	Ⅱ	つまものを主とした市場出荷経営	30 (施設20)80	3	つまもの	園芸用ハウス、予冷庫、荷造り調整施設
8	野菜	Ⅱ	露地野菜の市場出荷を主とした経営	120 (施設0) 240	3	キャベツ、ブロッコリー、ダイコン、ホウレンソウ、ニンジン等	移植機、予冷庫、洗浄機
9	野菜	Ⅳ	農業体験農園と直売野菜を主とした経営	65 (施設10) 90	3	トマト、キュウリ、キャベツ、ホウレンソウ等	園芸用ハウス、体験農園施設
10	野菜	Ⅱ	直売野菜と市場出荷を組み合わせた経営	80 (施設20) 160	3 + ボランティア1	トマト、キュウリ、コマツナ、ホウレンソウ、ダイコン等	園芸用ハウス、予冷庫、野菜洗浄機
11	野菜	I	共同直売所や庭先直売、インショップなど多様な販売方式による野菜経営	60 (施設20) 120	3	トマト、キュウリ、インゲン、葉物、スイートコーン、ダイコン他	園芸用ハウス、予冷庫、直売施設
12	野菜	Ⅱ	アシタバの経営(加工用と生食用の組み合わせ)	200 (施設0) 200	2	アシタバ	袋詰機
13	複合	I Ⅱ	野菜、切り花、果樹のスーパーとの契約出荷、学校給食、直売を主体とした経営	80 (施設20) 160	3 + ボランティア2	トマト、キュウリ、エダマメ、スイートコーン、ホームユースフラワー、ブルーベリー	園芸用ハウス、予冷庫
14	複合	Ⅱ	アシタバとフェニックス・ロベレーを主とした土地利用型経営	120 (施設0) 120	2	アシタバ、フェニックス・ロベレー	袋詰機、自動梱包機

第2節 経営モデルの例示

番号	分類	タイプ	営農モデル	経営耕地(a) (施設面積a) 作付面積(a)	労働力(人)	主な品目	主な施設・機械
15	花き	I	花き類の直売と市場出荷を組み合わせた経営	50 (施設30) 120	2 + 雇用1	鉢花(シクラメンなど)、花壇苗、野菜苗	園芸用ハウス、自動かん水装置、培土消毒器、ポットティングマシン
16	花き	II	鉢花、花壇苗の市場出荷を主とした経営	80 (施設20) 160	2 + 雇用0.5	鉢花、花壇苗	園芸用ハウス、蒸気消毒機、自動かん水装置、バックホー、用土置場
17	花き	II	切り花の市場出荷経営	60 (施設60) 60	2	バラ	園芸用ハウス、暖房機、養液供給装置
18	花き	II	ブバルディアの市場出荷を主とした経営	100 (施設50) 100	2	ブバルディア、センリョウ、ハラン等	園芸用ハウス、自動梱包機
19	花き	II	フェニックス・ロベレニー切葉の市場出荷経営(露地と施設の組み合わせ)	140 (施設40) 140	2	フェニックス・ロベレニー	ラスハウス、自動梱包機
20	花き	II	切葉類の市場出荷経営	30 (施設30) 30	2	レザーファン、ルスカス、キキョウラン等	園芸用ハウス、自動梱包機
21	花き	II	観葉鉢物の市場出荷経営	100 (施設50) 100	2	フェニックス・ロベレニー、シェフレラ類等	園芸用ハウス、ラスハウス
22	果樹	IV	観光を取り入れた果樹経営	80 (施設0) 80	2 + 雇用0.5	ナシ、ブドウ、ブルーベリー	スピードスプレーヤー、直売施設
23	果樹	I	欧州系ブドウを取り入れた果樹経営	50 (施設20) 50	2	ブドウ	園芸用ハウス、スピードスプレーヤー、防葉シャッター
24	果樹	I	ナシ、ブドウを主とした果樹経営	80 (施設0) 80	2 + 雇用0.5	ナシ、ブドウ、キウイ	スピードスプレーヤー、かん水設備、直売施設、防葉シャッター
25	果樹	I	パッションフルーツを主とした施設園芸経営	30 (施設20) 30	1 + 雇用1	パッションフルーツ、マンゴー、トマト	園芸用ハウス
26	複合	I II	パッションフルーツとサンダーソニアによる複合経営	60 (施設30) 60	2	パッションフルーツ、サンダーソニア	園芸用ハウス、暖房機
27	複合	IV	観光農園と直売を組み合わせた複合経営	80 (施設0) 80	2 + 雇用0.5	ブルーベリー、キウイ、きのご類等	加工施設、販売施設、食体験施設
28	植木	II	緑化木を主とした植木経営	140 (施設10) 140	2 + 雇用1	ハナミズキ、コニファー類、ツツジ類、コンテナ植木等	育苗ハウス、クレーン付トラック、バックホー

番号	分類	タイプ	営農モデル	経営耕地(a) (施設面積a) 作付面積(a)	労働力(人)	主な品目	主な施設・機械
29	茶	Ⅲ	小売り販売を主とした生葉・製茶の一貫経営	150 (施設0) 150	2	茶	乗用摘採機、防霜ファン、製茶機器、販売施設
30	畜産	Ⅱ	黒毛和種の繁殖を主とした経営	150 50頭 (繁殖牛)	1 + 雇用0.5	子牛、堆肥	牛舎、ふん尿処理施設
31	畜産	Ⅱ	TOKYO Xの一貫経営	30 30頭 (母豚)	2	TOKYO X、堆肥	豚舎、ふん尿処理施設、自動給餌機
32	畜産	Ⅰ	地域資源のリサイクルに取り組む養豚経営	30 500頭 (肉豚)	2	肉豚、堆肥	豚舎、ふん尿処理施設、飼料調整施設
33	畜産	Ⅱ	採卵鶏と東京しゃも生産を組み合わせた経営	30 3000羽 (採卵鶏) 1000羽 (東京しゃも)	2 + 雇用1	鶏卵、東京しゃも、乾燥鶏ふん	鶏舎、ふん尿処理施設、直売施設
34	畜産	Ⅲ	酪農と自家製乳製品を組み合わせた経営	50 20頭 (搾乳牛)	2 + 雇用0.5	生乳、乳製品、堆肥	牛舎、ミルカー、バルククーラー、ふん尿処理施設、乳加工販売施設

(3) 農業の広がりを支える経営モデル（所得目標300万円）

番号	分類	タイプ	営農モデル	経営耕地(a) (施設面積a) 作付面積(a)	労働力(人)	主な品目	主な施設・機械
1	野菜	Ⅱ	果菜類を主とした市場出荷経営	50 (施設20) 80	2	トマト、キュウリ、 野菜苗	園芸用ハウス、予 冷庫
2	野菜	Ⅳ	農業体験型農園と野菜直販を主 とした経営	50 (施設0) 60	2	トマト、ナス、ホ ウレンソウ	園芸用ハウス、体 験型農園施設
3	野菜	Ⅱ	ワサビの市場出荷を主とした経 営	50 (施設0) 50	2	ワサビ	育苗ハウス
4	野菜	Ⅲ	野菜直売と農産物加工販売を組 み合わせた経営	50 (施設10) 80	2 + 雇用1	スイートコーン、 ダイコン、サトイ モ、菓子、惣菜	園芸用ハウス、加 工施設、予冷庫
5	野菜	Ⅰ Ⅳ	多品目野菜の直売に、観光農園 を取り入れた経営	50 (施設10) 70	2.5	トマト、キュウリ、 コマツナ、ホウレ ンソウ等、ブルー ベリー	園芸用ハウス
6	野菜	Ⅰ Ⅱ	共同直売所やインショップ、契 約出荷など多様な販売方式によ る野菜経営	60 (施設5) 100	2	トマト、キュウリ、 コマツナ、カブ、 ブロッコリー、キ ャベツほか	園芸用ハウス、予 冷庫
7	野菜	Ⅱ	アシタバの市場出荷経営	80 (施設0) 80	2	アシタバ	袋詰機
8	野菜	Ⅱ	コマツナの市場出荷を主とした 経営	25 (施設5) 150	2	コマツナ	園芸用ハウス、予 冷庫
9	複合	Ⅰ Ⅱ	キヌサヤエンドウの市場出荷を 主とした複合経営	30 (施設20)	1	キヌサヤエンドウ、 パッションフルー ツ、切葉類	園芸用ハウス
10	花き	Ⅱ	花壇苗・鉢花を主とした市場出 荷経営	40 (施設10) 80	2	花壇苗、鉢花類	園芸用ハウス、自 動かん水装置
11	花き	Ⅱ	切葉類を主とした市場出荷経営	40 (施設20) 40	1	キキョウラン、カ ラー、モンステラ、 ルスカス、レザー ファン等	園芸用ハウス
12	花き	Ⅰ	切花の直売を主とした経営	35 (施設5) 50	1	ユリ、ストック、 アスター等	園芸用ハウス、暖 房機
13	複合	Ⅰ	切花の市場出荷と多品目野菜の 直売経営	60 (施設5) 100	2 + 雇用1	キク、枝物、トマ ト等	園芸用ハウス
14	果樹	Ⅲ	ウメ、ユズ、カキ等の生産と加 工、販売を主とした経営	60 (施設0) 60	2	ウメ、梅干、カン キツ類、カキ	加工施設、直売施 設

番号	分類	タイプ	営農モデル	経営耕地(a) (施設面積a) 作付面積(a)	労働力(人)	主な品目	主な施設・機械
15	果樹	I	ナシ、ブドウを主とした果樹経営	30 (施設0) 30	2 + 雇用0.5	ナシ、ブドウ、キウイ、カキ	スピードスプレイヤ、かん水施設、直売施設
16	果樹	IV	ブルーベリーの摘み取りと直売を主とした果樹経営	30 (施設0) 30	2	ブルーベリー	防鳥網施設、直売施設
17	複合	IV	パッションフルーツとトマトの複合経営	30 (施設10) 40	2	パッションフルーツ、トマト	園芸用ハウス
18	植木	II	緑化用苗木の母樹生産を主とした経営	80 (施設10) 80	2	ツツジ類などの苗木	育苗ハウス(ミスト)
19	植木	II	植木の生産、販売を主とした経営	80 (施設10) 80	2	ハナミズキ、ツツジ類、シャラ、ヤマボウシ、ツゲ等	クレーン付トラック、バックホー
20	畜産	II	TOKYO Xの一貫経営	30 20頭 (母豚)	2	TOKYO X、堆肥	豚舎、ふん尿処理施設
21	畜産	I	庭先販売を主とした養鶏経営	30 2000羽 (採卵鶏)	1.5	鶏卵	鶏舎、堆肥舎、直売施設
22	作物	III	ソバ、コムギ、ダイズ等の生産、加工、販売経営(PPV跡地等)	60 (施設0) 90	2	ソバ、コムギ、ダイズ	コンバイン、加工施設、食体験施設

(4) 農業生産法人など企業的な経営モデル（販売目標5,000万円以上）

番号	分類	タイプ	営農モデル	経営耕地(a) (施設面積a) 作付面積(a)	労働力(人)	主な品目	主な施設・機械
1	野菜	Ⅱ	コマツナ等、水耕軟弱野菜の高度集約経営	40 (施設40) 480	3 + 雇用4	コマツナ サラダ菜 ミニセロリー等	園芸用ハウス、水耕施設、調整・梱包施設、予冷库
2	花き	Ⅰ	特産花き・観葉鉢物の法人経営	500 (施設80) 500	3 + 雇用5	フェニックス・ロベレニー、観葉鉢物、サンダーソニア、球根・苗	園芸用ハウス
3	植木	Ⅱ	緑化木の生産・流通と造園施工を行う経営	200 (施設5) 200	2 + 雇用2	シマトネリコ ソヨゴ コニファー類 ツツジ類等	クレーン付トラック バックホー、根切チェーンソー
4	畜産	Ⅲ	乳製品の加工を行う法人経営	—	1 + 雇用4	乳製品	充填機、アイスクリーマー、冷蔵・冷凍庫、ショーケース
5	畜産	Ⅱ	搾乳ロボットを取り入れた酪農経営	300 80頭 (経産牛)	3 + 雇用2	生乳、堆肥	牛舎、搾乳ロボット、バルククーラー、TMR給餌機、ふん尿処理施設
6	加工	Ⅲ	自家産および地元産の農畜産物の加工を行う法人経営	—	3 + 雇用3	惣菜、弁当	ショーケース、ガス自動フライヤー コールドテーブル 冷蔵庫